

こちらフリースクールです。

フリースクールの2学期

暑かった夏休みが終わったころ、急に涼しさが増し、秋の気配が一気に深まったように感じました。季節の変わり目とともに、フリースクールも2学期に突入しました!

10月に入り、フリースクールでは毎年恒例になっている「いも煮会」が開催されました。今年は、荒川桜つつみ河川公園を会場に行ったのですが、お天気に恵まれ、絶好のいも煮会日和となりました。現地に着くと、指示が無くて自ら動いて準備をする子どもたちは、いつ見ても頼もしく、誇らしく感じます。その姿は今までの先輩たちが見せてきた姿なんだと感じました。そして、協力して作り上げた「山形風と福島風のいも煮とじゃがバター」。一生懸命に作った芋煮はとても美味しく、来年もこんな風にできたらと思いました。そのあとは、近くの公園に響き渡る子どもたちの声。缶けりや鬼ごっこを本気でやると燃

えるんです。今の子どもたちが知らない、昔からある遊びを、地域のみなさんから教えてもらえないかなあ。そんなことを思いながら、子どもと走り回っておりました。秋ののどかな青空に、美味しい芋煮と子どもたちの笑顔! 秋の季節に思い出がまた増えました。

最近、テレビや新聞でも取り上げられることが増え、フリースクールの認知度は少しずつ上がってきています。しかし、「名前は知っているけど、実際どんなことをしているのかまでは・・・」という人も多いため、そこで、地域の方にフリースクールでの活動の様子を知ってもらおうということで、11月21日(土)に、フリースクールを一般開放する「オープンハウス」を実施します。子どもたちや保護者の



みなさまが作った、愛情たっぷりの豚汁や焼きそば、本格的なコーヒーまで楽しめる軽食コーナー。みなさまからの善意で開催するチャリティバザー(お品物のご寄付もお待ちしています。)フリースクールの日々の様子を紹介したり、子どもたちが作る遊び場コーナーもあります。このオープンハウスを通じて、フリースクールの情報を必要としている方に情報が届くこと、そして、一生懸命この企画を作る子どもたちの思いが、たくさんの方へ届く事を願っています。是非みなさま、お誘い合わせの上で会場ください。

編集後記

山々が色づき、すっかり紅葉シーズンですね。紅葉の美しさは、様々な色が混じっている様子の美しさだと思います。赤や黄色といっても木ごとに、よく見れば葉ごとに微妙に違う色をしていて、山全体を見れば色が変わらず緑のままの葉もある—多様な色が混在する風景に美を感じる日本人の感性、素晴らしいですね。多様な色で染まった山々を愛でる心が他の分野にも広がるのではないと思いつつ、休日は山に出かけます。

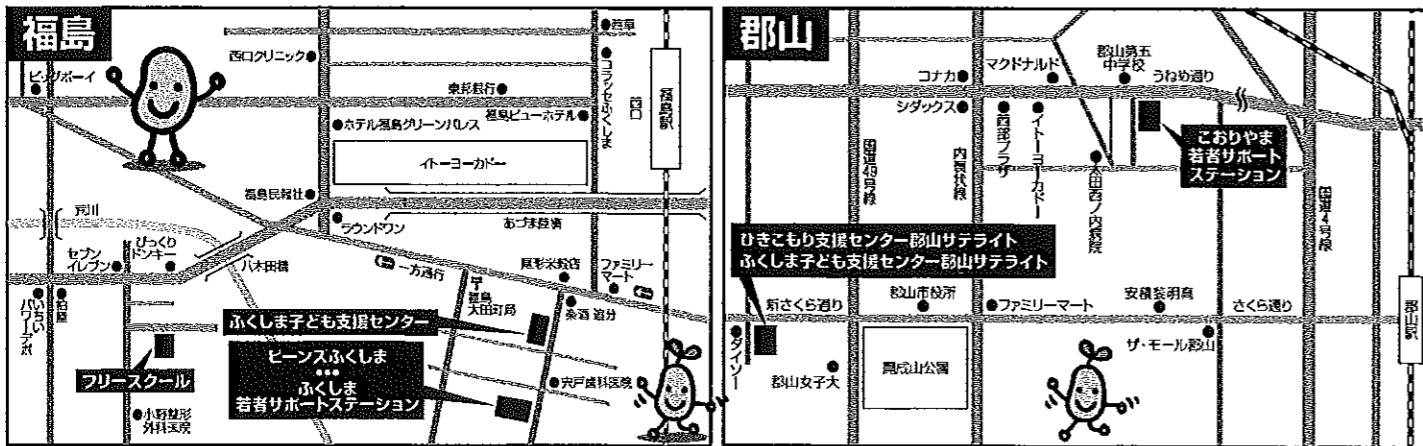
これからの活動予定

●フリースクールオープンハウス

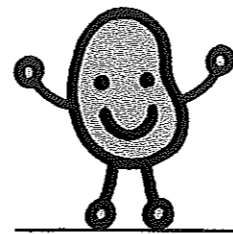
平成27年11月21日(土) 11:00~15:00
場所: フリースクールビーンズふくしま

●親の会(不登校のお子さんのおられる親御さんの集まり)

平成27年11月28日(土) 13:30~15:30
場所: フリースクールビーンズふくしま



●ビーンズふくしまのホームページ はこちらへアクセス → <http://www.k5.dion.ne.jp/~beans-f/>



ビーンズ通信

●発行日/2015年11月10日

Vol.72

●発行元
特定非営利活動法人
ビーンズふくしま
〒960-8066 福島県福島市矢剣町22-5 2F
TEL&FAX 024-563-6255
URL <http://www.k5.dion.ne.jp/~beans-f/>
E-mail info@beans-fukushima.or.jp

NPO法人ビーンズふくしまは、不登校の子どもやひきこもりの青年などに安心できる居場所を提供し、1人1人に寄り添って、ゆるやかな社会参加を促し、その自立を支援する、若者支援の理念に基づいて事業を展開しています。

夏が終わり、秋の気配を感じる9月9日、フリースクールから始まったビーンズふくしまが、沢山の皆様からの支えがあり、無事に16周年を迎えることができました。本当にありがとうございました。

イベント恒例の「9月9日9時9分9秒のジャンプ」。今年は残念ながらの雨。16年間この日が雨になったのは初めてなんです。そのため、初の室内ジャンプをしました。その後、ビーンズ立ち上げから関わっていた、理事長の若月さんと被災子ども支援部門の部門長の中鉢さんから、ビーンズが出来るまでを子どもたちからの質問形式でお話を頂きました。子どもたちのまなざしも真剣そのもの。ビーンズの歴史、子どもの居場所を作ろうと思った大人の思い、そして、自分たちの居場所についての子どもの思いを聞くことができ、大変貴重な時間になりました。

その後は2チームに分かれてスポーツ大会を行いました。障害物競走、バスケットボール、ドッチボールなどを行い、スタッフも全力で闘う姿はビーンズそのもの!最後まで笑顔あふれる一日になりました!

16周年ジャンプと子どもたちの声



若月理事長からの質問: フリースクールへ繋がって得られたことは?

子どもたちの声

- 以前よりコミュニケーション能力がついた。不登校の時は言えなかった悩みや不安を話せる場所が出来て良かった
- 学校では自分の辛い現状を受け止めることができなかったが、フリースクールへ通うことで、自分が本当に変わった気がする

- 居場所が学校に無かったから、ここに来てなかったらどうなっていたか分からない。本当にここがあって良かった
- 最初来た時は話すことができなかったが、ここに通うようになり、話すことができた
- バイトももちろんだけど、ここでの出会いと経験が自分にとって大きい。これからの未来を考える時、ここでの今までの経験が大きく、フリースクールのお陰だと思っています。

ワールド・ビジョン・ジャパンさんも一緒にジャンプ!

創立16周年、おめでとうございます。ビーンズさんとは東日本大震災復興支援でつながりができて以来のおつきあいで、時折、活動現場にお邪魔しています。大切な創立記念日の伝統の「ジャンプ」、うまく息を合わせられるかドキドキしましたが、とても楽しいひとときに加えてくださり、ありがとうございました。

ビーンズさんは子どもや若者のために様々な活動を展開していますが、そのすべてに共通するのは「温かさ」、誰もが安心してのびのびといられる空間ができていることだと思います。子どもや若者が自分らしく豊かに成長するために、こうした空間がいかに大切か、ビーンズさんの活動を通じていつも気づかされます。

ワールド・ビジョン・ジャパンも、日本を含めた世界の子どもたちとともに働く団体として、同じ志を持つビーンズさんと、これからも交流と協力を続けていきたいと思っています。

特定非営利活動法人
ワールド・ビジョン・ジャパン
高橋 布美子

10月18日、不登校体験者のお話を聞く会 in フリースクール フリースクールってどんなところ？

今回の企画は、16周年のイベントの時に子どもたちが語った「フリースクール(以下FS)に来てよかったと思うこと」に端を発しました。学校以外の地域の居場所、FSはどのような場所なのでしょう。16周年の時に子どもたちが語った素直な言葉は、FSという場の雰囲気がありありと伝わってくるものでした。そこで、普段見えにくいFSの雰囲気を伝えたく、この会を開き、39名の方にご参加いただきました。

理事長の若月が聞き手となり、FSを卒業した、現在バイト中のAさんと、高校に通うB君、保護者のCさんの3名が自分の体験や想いを語ってくれました。

FSに通うようになった経緯

彼らが学校を休むようになった経緯や、ピーンズを知る経緯はそれぞれ違うものでした。その3人が共通に語った言葉は**隙になったから**でした。彼らが語る「隙」には彼らが自分のもともと持っているエネルギーをどこかで発揮したいという思いが込められているように感じ、誰かに無理やり連れてこられたわけではなく、自分から行こうと思いつながってきてくれたように聞こえました。

FSに来た印象は？

Aさんはニュースで特集されていた大阪のFSに通う子どもたちの目や顔に安堵感、安心感が表れているのを見て、どこか解放された感じを受け、ピーンズを探しました。見学に来た日、ピーンズの子たちからも同じ**解放された感**を感じたそうです。B君がピーンズに出会ったのは「出張ピーンズ-お菓子の家



を作ろう」。お菓子の家を作る時間にもかかわらず、寝たり、ゲームしたりしている子がいて、「なんだこいつら、同じ人間か」と思い、カルチャーショックを受けたそうです。その時は気づいてなかったけど「なんだこいつら」の中に自分も入っていたのかなと振り返っていました。さらにFSは人の嫌がることはしないとか最低限のルールがあるだけで、いろんな年齢の人もいて、知らないことを知るの面白かったと、保護者のCさんはお子さんにFSを**自由な学校だよ**と伝えたそうです。子どもがFSに来たのは2階に休む部屋あるっていうのとか、いつ来ていつ帰ってもいいっていうのがハードルが下がったと思うと振り返っていました。

実際FSに来て、何をしてきた？

「本当に毎日が楽しくて、芋煮会お泊まり会とか楽しかったけど、**普段の生活も楽しかった**」と語るAさん。B君も、「そうそう、普通に生活が楽しかった。(イベントも普段の生活も)楽しさの度合いが同じなんだよね」と、今回一番話が弾んだ場面でした。ここに来ること自体を楽しんでいた彼らの様子が感じられました。「FSでは学校と違い年齢に関係なく、一人の役割を担う人としてトライさせてもらえる。**認められてんだな**みたいなものがある」とB君。

子どもをFSに通わせて

子どもはほとんど学校に行っていないけれど「将来ダメな人間になってしまうんじゃないか」という不安は無いと語るCさん。「ピーンズで成長してきた息子を一社会人としてみても、人を傷つけちゃいけないとか、人にやさしくとか、困っている人を助けるとか、ちゃんと身につけている。」Cさんの中には**根拠のない自信**みたいなものがあるとのこと。「思春期の子がぶつかる葛藤など、大人になるまでの段階を踏んでいっていることも手に取るようにわかる。それを本人も私も実感しているし、

お互いを信頼している。学校行っている子と変わらない生活をしているんだなと思う。」と語られました。

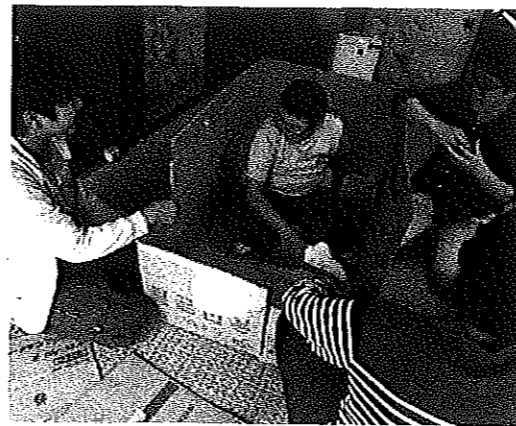
FSで変化したこと

「FSに来る前は、いじめ受けていっぱい、周りを思いやること出来てなかったけど、振り返る余裕ができて、周りの人を思いやることも心がけられるようになったんじゃないか」と語るAさん。B君は「クラスとかで困っている人に一声かけたりとかします。FSは**共同生活なので**こういう言い方しない方がよいのかなとか見える。FSに来なかつたら気づかないかなって。ここはみんな(同じ思いしている)で**優しい。気配りができる**」と語っていました。

現在、高校の普通科に通っているB君。高校に行った理由について、「世の中は勉強第一主義者多い。それを変えるための力を持つために、嫌だけど勉強しなきゃって。だけど口の中はヘルベスで血だらけで、俺は学校に行こうとしているのに、親は休めって言うてる。逆ですよ」と笑うB君。付け加えて「あくまでこれは僕の場合で、「これがよい」と無理やり子どもに渡すのではなく、本人に見つけて欲しい。そこを伸ばして欲しい」と語りました。

親御さんに言いたい事

「子どもは自分で歩き出す。待っている時は長くて辛い。そういう時でも変わらない日常を過ごしていて、「あなたのこと心配ないよ、大丈夫だよって思ってるよ」と思って接していると子どもも安心するのかな」と、親の立場としてCさんは語りました。Aさんは「家でボーっとしてたり、楽しいことに逃避しているように見えるけど、さほ



りではなくて、リハビリしてる状態と思ってほしい。可能なかぎり**待ってほしい**なって。頑張ったねとか、無理をしないでねっていう言葉をかけてほしい。そして逃げちゃダメだって言ったり思っている人多いけど、私の経験的には無理だと思うんで**逃げて良い**って言ってほしい。まだまだその選択肢を知らない人もいる。そして逃げた子が**安心できる場**を見つけてほしい」と語り、3人のお話は終了しました。

最後に

フロアからの感想をいただいて、会は終了しました。なお、今回の話はあくまでもそれぞれのストーリーです。正解がある話ではありません。正解探しではなく、今目の前にいるそれぞれの子どもたちの声に耳を傾けていただければと思います。



T O P I C S 子どもたちに教えられた『新しい価値観』

理事長 若月 ちよ

子どもが不登校になる・・・親にとっては、まさに青天の霹靂です。私も長男が、「学校に行けなくなる」という状況を目の当たりにした時には、何が起こったの?という思いでした。

齊したりすかしたりしながら、何とか学校の門の前に連れて行き、先生が迎えに来て、校内に・・・そんな毎日を繰り返していたある日、学校の前に着いた車の中の長男の顔が、文字通り顔面蒼白で、その目から涙がツーツと流れてきたのです。その瞬間、このまま無理をしたら、この子は具合が悪くなる、そう思い、そのまま家へとUターンして帰りました。

「学校に行くことは当たり前」と思っていた私にとって、「行くことができない」ということがあるのだ、ということを経験なく突きつけられた瞬間であり、いろんな生き方があっていいんだという思いに至る最初の出来事でした。

それでも、やはり、「学校に行かせたらいいのかわ」「行かせなくていいのかわ」は親としては揺れる毎日でした。そんな時相談に伺ったある先生が、おっしゃった一言がありました。「今、学校に行くか、行かないかを決めなくてもいいんじゃない?」そうなんです。それを決めてほしかったのは、母親である私自身で、決めることで安心したかっただけなのです。本当は、子どもの気持ちに寄り添い、今子どもがどうしたいか、どうできるかを理解することなのだと学んだ瞬間でした。

そして、ある青年との出会いがありました。その青年は19歳で、小学

校時代から不登校していました。その青年と話をした時に、すごいなあと感じたのです。自分の考えをしっかりと持ち、自分の言葉で語る様子に、普通に大学に行っている同年代の子たちと比べて劣らないどころか、しっかりと自分を持っているのだなあ、と感じたのです。その瞬間、不登校していても、育つことができる場さえあれば、大丈夫なんだという確信を持つことができました。

いくつかの気付きと今までは違う生き方との出会いを経て、私は今までは違う価値観を学ぶことができました。それは私自身の生き方も変えることに繋がっています。

いろいろな生き方があっていい、その人らしい生き方を見つけてほしい、私はそれを応援して行きたいと思います。そしてそこまで至るには、苦しい思いと向き合なくてはいいけない時もあるでしょう。特に親にとって、自分の今までの生き方を問い直す機会にもなります。そこに、一緒にいられたら、一緒に考えることができたらと思っています。

子どもたちに教えてもらった新しい価値観、生き方...それによって私は、生きることが楽になりました。自分の気持ちを大事にして生きていくことが、周りも大事にしていくことにつながるのだと思います。様々なことに気付かせてくれた子どもたちに、感謝です。

